

令和5年度実証運行の結果（広島電鉄1号線、55号線）

第21回（令和6年10月22日開催）
広島市地域公共交通活性化協議会提出資料



■ 運行概要

地毛バス停と薬師が丘団地、東観音台団地の間を、小型車両により増便（3～5往復）（オフピーク時のみ）

※五日市駅北口バス停、広島バスセンター発着の既存便は現状どおり運行

■ 検証内容

団地と地域の生活拠点や都心等とのアクセス性の向上により、新たにどのような移動需要が喚起されるかを検証

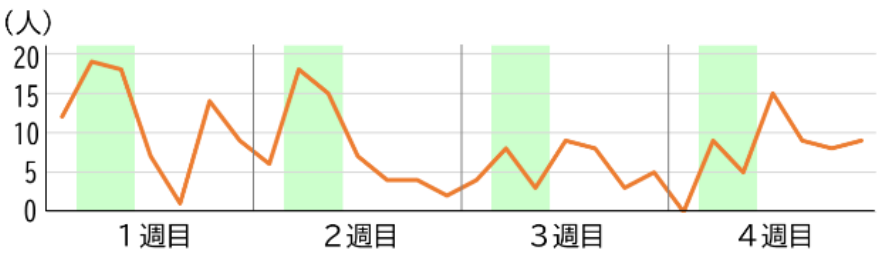


■ 運行結果

(1) 利用状況

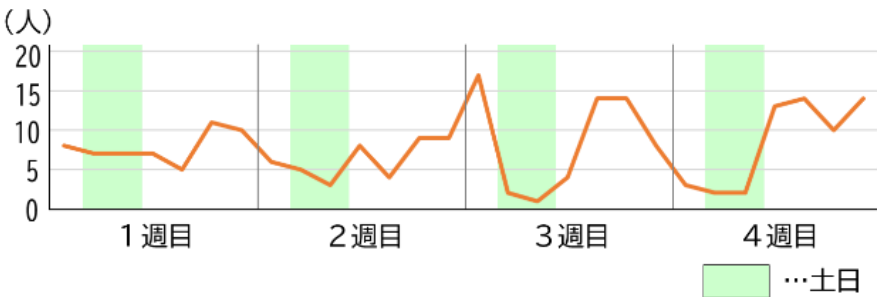
① 増便区間

薬師が丘団地：8.3人/日（平日6.8人/日、土日11.9人/日）



- ・総利用者数は**8.3人/日**
- ・このうち、増便区間（団地～地毛）のみで移動した利用者数は**約8割**
- ・乗り継いで移動した利用者数は**約2割**で、乗継利用者の主な目的地は、五日市駅、市内中心部

東観音台団地：7.8人/日（平日9.4人/日、土日3.6人/日）



- ・総利用者数は**7.8人/日**
- ・増便区間（団地～地毛）のみで移動した利用者数は**約7割**
- ・乗り継いで移動した利用者数は**約3割**で、乗継利用者の主な目的地は、五日市駅、市内中心部

② 並行路線を含めた路線全体

- ・増便区間と既存路線（1号線・55号線）を合わせた路線全体の利用者数は**1.4%増加**

■ 検証結果

- ・両団地から生活関連施設等が集まる地毛周辺への移動ニーズが高いこと、また、市内中心部等への乗継利用も一定程度あることが確認できた
- ・一方で、フィーダー便により利便性の向上が図られ、既存路線の赤字縮小もあったものの、路線全体としては収支が悪化したことから、本格運行に向けては、フィーダー便の利用を増やすための工夫や、フィーダー便と直通便（既存路線）の再編など、路線全体で需給バランスがとれた最適な運行形態への見直しが必要である

(2) 収支状況

（単位：千円）

		運行経費	運行収入	収支差
実証運行路線	11月	-	-	-
	12月	1,680	57	-1,623
	差分(A)	1,680	57	-1,623
1号線 55号線	11月※	33,797	28,381	-5,416
	12月	33,560	28,471	-5,089
	差分(B)	-237	90	327
合計(A+B)		1,443	147	-1,296

※営業日数をそろえるため、11月は28日分に換算した値としている

- ・実証運行路線は1,623千円の赤字
- ・既存路線は赤字額が327千円縮小
- ・路線全体としては、赤字額が1,296千円拡大

(3) 利用者の声（※実証運行期間中、事業者や本市に寄せられたもの）



・フィーダー便は定時性が確保され非常に良かった

・小型車両の特性を活かし、大型バスでは走れないルートを運行してほしい



・年々高齢化が進んでいる団地にとって、バスは必要不可欠な交通手段だから続けてほしい
・小型車両は乗り降りの際にステップが自動で出てくるようになっており、高齢者に優しかった